



雲から着想した“わたあめ味”
岩塚製菓の「ふわっと」をもとに、日本航空大学校北海道の学生が考案した新作です。空に浮かぶ雲からインスピレーションを得て、「子どもから大人まで楽しめる味」としてわたあめ味をチョイスしました。

10/7
一般販売開始



岩塚製菓 × 日本航空大学校北海道がコラボ 新商品 “くもっと” 登場!

日本航空大学校北海道
ベラスコ・カリスさん

「くもっと」は子どもから大人まで楽しんでいただけるお菓子です。この商品を通して、千歳市のシンボルである空港の開港100年、そして千歳市の魅力が多くの人に伝わればと思っています。



「くもっと」を
よろしく
お願いします!

最優秀賞に選ばれた脇江大輝さん(左)。大輝さんのアイデアをお母さんの早希さん(右)がデザイン。親子の絆が生んだ力作です。



ロゴマーク

子ども特別賞
0～12歳
加藤 柚朱さん



100 Anniversary

since 1926

千歳市空港開港100年

開港90年～99年記念ロゴマーク
千歳航空協会の記念ロゴマークがこちら。2016年から使用されており、空港開港98年の今年は「98」の数字をモチーフに。来年はこれを「99」に変えて使用します。



@ SFA・CHITOSE 「航空教室」98

千歳航空少年団による航空イベント



空のお仕事体験プログラムや映像による空の世界を紹介しました。木製飛行機展示・SAF紹介なども。

@ 千歳のまちの航空祭



尾翼に98年ロゴマークが描かれたF-15を航空祭でお披露目。

@ 空と川の OUTDOOR*FESTIVAL



アウトドア好きが集まる祭典で、空港の歴史を紹介するパネル展を開催。100年をテーマにした制作体験も。



千歳市空港開港100年まで、あと2年

こんなこと、やっています

入選作品はコチラ!

4月号に続いて、千歳市空港開港100年の機運醸成を図るまちの取り組みを紹介いたします。100年のシンボルとなるロゴマークとキャッチフレーズの完成をはじめ、

まちで行われている100年関連イベントをラインナップしました。2年後のそのときを前に、まちの至るところで「100年」の言葉が見られ、機運の高まりを実感できます。

千歳市空港開港100年記念

ロゴマーク & キャッチフレーズが決定!

千歳市空港開港100年記念事業ロゴマーク・キャッチフレーズの最優秀賞が投票により決定。9月8日に行われたSKY&AUTUMN DREAM FESTA2024のステージにて両者がお披露目されました。

ロゴマークの最優秀賞に選ばれたのは、みどり台小5年の脇江大輝さん。キャッチフレーズの最優秀賞は、兵庫県にお住まいの内橋弘文さんが受賞しました。ロゴマークとキャッチフレーズの募集は、千歳市空港開港100年記念事業実行委員会が実施。ロゴマークは528点、キャッチフレーズは2,289点の応募があり、関心の高さがうかがえました。

キャッチ
フレーズ

最優秀賞
内橋さんコメント

心から北海道が好きなので、この100年プロジェクトが成功することを願っています。

次の100年へ 翼に夢を乗せて

特別賞
渡部 徹夫さん



優秀賞
菅野 薫さん



脇江大輝さん
& 早希さん
受賞インタビュー

Q. ロゴ誕生までの経緯を聞かせてください。

ロゴ募集の紙を学校からもらったのをきっかけに、大輝がアイデアを出して、私がデザインしました。



開港100年を明るくお祝いしたいと思って、明るいイメージの虹を入れました。



Q. お母さんのデザインをどう思いましたか。自分のアイデアが形になったのを見て。

めっちゃいいじゃん! って(笑)。



「虹と飛行機を入れて、シンプルでかっこよく」というアイデアを形にして、2人で「これで行こう」と決めました。



Q. さらに100年後の千歳は、どうなっていると思いますか。

もっと人口が増えて、もっといい空港ができていると思います。100年で終わらず、もっともっと続いていくように、このロゴマークをみんなで見てもらえたら嬉しいです!



エアラインから副賞贈呈

最優秀賞のお2人には賞金のほか、JALとANAからそれぞれ副賞としてペア復航空券が贈られました。

